

2007年9月25日(火)

増刊

AJU通巻8132号

昭和54年8月1日

第3種郵便物認可



# AJU 愛実

## 第2号

発行者：特定非営利活動法人 愛実の会



## 愛実友だちの家

名古屋港水族館！



イエローシート  
キャンペーン

## 紙風船



名古屋港水族館！

## 大地の家



## <事務局便り>

いつも愛実の会のことを心にかけて下さり、ありがとうございます。

さて、私どもは、今年1月に特定非営利活動法人（NPO 法人）愛実の会となり、今年4月から障害者自立支援法に基づく生活介護事業（デイサービス）とホームヘルプ事業、移動支援事業（ガイドヘルプサービス）を始めました。おかげさまで事業開始して半年がたちました。

現場ではメンバーの方々へより良いサービスを提供しようとして活動を続けておりますが、それと共に事務局体制の強化と事務局業務の充実も大切なこととして考えております。そこで、10月よりNPO 法人愛実の会の事務所を移転し、より充実した事務局体制・事務局業務を目指していくこととなりました。この新しい事務所は現在生活介護を実施している3箇所の事業所（愛実友だちの家・大地の家・紙風船）のいずれにも近く、車でも公共交通機関でも容易に行ける場所にあり、現場と事務局の連携の大切さを思うにつけ、本当に良い場所が与えられたと思っております。

今後も、現場と事務局ともども、メンバーのより良い地域生活サポートのために歩んでまいりたいと考えております。どうぞ変わらぬご支援よろしくご願い申し上げます。

中森由哉

## 生きにくい時代に

障がいを持つ人と生きてきて、感心する一つは、他者に自分を委ねるという力です。赤ちゃんは、自分をすべて他者である大人に託して、生きています。泣けば、オムツのこと、おっぱいのこと、不快なこと、すべて解決することを信じています。自我が育ち、身の回りのことが自力で出来るようになると、頼ることをしなくなります。青年期以後は、働くことが中心で誰かを助けることも多くなります。やがて壮年期を過ぎて、次第に誰かの助けが必要になってきます。そういう立場になって、障がいのために周囲に助けられて生きてきた友人達をみると、驚きます。見事に自分を人に託して生きています。思う通りにはならない日々、悔しい日々があります。伝えても伝わらないしんどさがあります。なのに、周囲を思いやりながら、控えめに自己主張している人々。いったい自分はこんなに見事に生きられるだろうか、考えます。彼らこそ人生の先輩です。

かつて、私を評して「陽子ちゃんがいなければ、島さんは風船みたいに飛んでいってしまう。」と言った人がいました。ひとりで自由に飛び回りたいと思った日々も正直ありました。でもいつも重石のように一緒にいてくれた娘。確かに不自由でした、しかし自由の日々を過ごしたとして、何が出来たのでしょうか。むしろ、大地に根を張り、生きる確かさを知ったのは娘や娘の友人達のおかげです。

この夏、嬉しい出来事がありました。ホームレスの人たちの夏祭りの時でした。毎年、「いこいの家」として衣料品のバザーを出展しています。今年はホームレスの方たちが手伝ってくれたので、椅子に座ってのんびりしていました。隣で私ぐらいのおじさんが、「あんた昔は綺麗だったろうな〜」と言いました。内心「今は綺麗じゃないのかい！まあ事実だからいいか！何をこの人は言いたいのか〜」と黙って笑っていました。彼が続けました。「今日、あんたの笑顔にわしは救われた。」と言って長い話をしてくれました。彼に対して何かをした訳ではなかったのに、そういう彼にびっくりしました。そして私は自慢に思いました。

私はいつもメンバーに救ってもらっています。私ばかりではなく、アシスタントはみなそうです。疲れた顔をしていると、覗き込んで「大丈夫か？」と気にしてくれます。声をかけると嬉しそうに笑ってくれるメンバーたちがいます。その笑顔から力を貰っています。私もホームレスの人たちの間でそういう笑顔をしていたなら嬉しいです。

愛の実りを願ってはじまった、愛実の会は、大地の家を生み出し、紙風船と一緒にになりました。政治が提供してくれるサービス状況は芳しくありませんが、大地に根を張り続けた人たちこそ、尊敬され、大事にされ、風船のように自由になってもらいたいです。そういう社会実現のために、みなさん笑顔で歩いて行きましょう。

NPO 愛実の会理事長 島しづ子

# 新潟県柏崎市「障がい者通所施設」ボランティア報告

去る7月16日に発生した新潟県中越沖地震で被害を受けた、柏崎市の障がい者施設「トライネット」に7月26日から28日までNPO愛実の会から3名(男性2名、女性1名)のヘルパーでボランティアをさせていただきました。災害ボランティア団体RSYの現地報告で、障がい者の施設が、16日の被災直後から開所し、県内外のボランティアが手伝っている事を知ったのは、7月23日でした。現地に連絡したところ、「物資は足りているので人だけ欲しい」とのことで25日夕方に車で名古屋を出発し26日深夜2時頃到着しました。

**＜柏崎市の状況＞** 私たちが現地に着いた当時の状況は、被災直後の混乱から復旧に向けて歩みだそうとしている時であったと思います。ライフラインは復旧についたばかりで、1,000軒を越す倒壊家屋の片付けや、危険家屋の取り壊しは始まって間がないように見えました。

**＜トライネットの状況＞** 私たちが行った「トライネット」は柏崎市内中心部に近いところにあり、2階建ての建物の大きな1軒家です。地震では建物の大きな被害はなかったのですが、隣の家の1軒は完全に倒壊しており、もう1軒は1階部分が潰れ、2階がトライネットに向かって大きく傾いていました。地震の直後にはトライネットにある全てのものが倒れ、床に落ちていたということです。

**＜被災地における障がい者問題＞** 今まで多くの被災地において障がい者・高齢者など災害弱者とりわけ、障がい者はなかなか避難所を利用する事は困難でした。その理由としては1、避難所がバリアフリーになっていない事が多く、車椅子などでは利用しにくい2、トイレなど障害者用施設が完備していない事が多い3、避難所が混んでいることが多く、使用するのが困難であったり、本人・親が遠慮するなど。その結果、障がい者とその親は、なかなか避難所を利用できず、被災し危険な自宅に戻ったり、遠隔地の知り合いなどを頼ったりすることが多いのではないのでしょうか。本来はこのような状況でこそ、障がい者に対する施設・サービスが提供されるべきだと思います。しかし施設の側も被害を受けており、職員も被災者となっていて、なかなか被災直後から施設を開所したり、サービスを提供する事は困難でした。

**＜トライネットの取り組み＞** トライネット場合は16日の被災の翌日から、2階で行っている自閉・知的児童を対象とする「一時預かり」と「居宅介護」をスタートさせました。さらに1週間後の23日には1階で行っている生活介護を再開させました。なぜそんなに早く再開する事が可能になったのか、その理由を見ると

1. 非常に早く緊急支援チームが入った／被災直後(数時間以内)に3年前の地震のため、新潟に入っていた日本財団緊急支援チームがトライネットに入り、所内の整理・片付けと、隣の家屋が傾きトライネット側に倒壊する恐れがあったのを倒壊予防のための工事を行ってくれた。
2. コーディネーターが入った／被災直後に新潟県内の障がい者施設を運営する人と、愛知県半田市のNPO法人「全国地域生活支援ネットワーク」の人がコーディネーターとして入り、県内外からヘルパーなどが応援に入る体制づくり、行政との連絡、各種物資などの確保などを手伝ってくれた。
3. そして何よりも、トライネットの代表者と職員が「再会」を決断したこと。

トライネット事務局長の説明によると、施設では前日の25日に水道が復旧したとのことです。それまでは非常用トイレを送ってもらったのですが、障がいを持った利用者にとっては物理的・精神的に利用できず、毎日トイレの水を運ぶのが大変であったという事。また多くの利用者が入浴できていなかったため、日本財団からお借りした、灯油を使った給湯装置を使い、普段は行わない入浴(シャワー)を26日より行いました。午後には応援に来ていただいた入浴車を使い利用者宅に行き、入浴のお手伝いを行うとの事でした。1階は「生活介護」で比較的重度の障害を持った方が朝9時から夕方4時頃までを過ごします。利用者の方は10名位に対し、通常は職員7～8名の方が介護されているわけですが、2日とも地元の職員の方は2名でした。その中で全体を見て指示を出せる方は1名です。それに対し県内外からのボランティアはヘルパーが3～5名くらい。ボランティアは介護には経験があっても、初めて出会う利用者の方の障害の内容、トイレ・食事など分からない事ばかりです。その中で職員の方はボランティアに的確に指示を出し、利用者の方と会話し、トイレを手伝い、記録を記入し、本当に目の回る忙しさです。2階のお手伝いでは、児童の方を入れ替わり立ち代りお預かりしました。地元職員の方は事務などの兼任です。しかし養護学校の先生が交代で来ていただいたため、一人一人の障害や、性格・介助について教えていただくことができました。一人の男の子は施設をダッシュで飛び出し、柏崎市内を3～4時間も走り回り、愛実のボランティアはたくさん汗をかいたそうです。3日間のボランティアを終え、最後に私たちが帰るときには、その時施設にいた利用者・職員の方が全員で見送っていただけました。本当にたくさんの「心のプレゼント」をいただく事ができました。

**＜今後に向けて＞** 今回の「トライネット」の取り組みは大きな勉強をさせていただくことが出来ました。その第一は被災直後から施設を再開させることの重要性。第二は再開には被災地の施設・職員も被害を受けており、遠隔地のボランティア(特にヘルパーなどの経験者)の応援体制が不可欠であること。第三には、そのため広域における施設の連携と、人的交流を日常的にいかにつくっていくか、と言うことではないのでしょうか。私たちもいつ災害にあい、被災者になるか分かりません。しかしどんなときでも障がいを持った仲間を守る事は私たちの一番大切にしていきたいことです。そのために私たちは今、「何をすべきか」という事を今回のボランティアの中で発見することができました。今回のボランティアを一過性のものにせず、これから起こるかもしれない災害に備えて、今一步を歩みだす事が大切ではないでしょうか。

鈴木 由夫

## 新潟県柏崎市の様子



# 愛実友だちの家のページ ( 13~4 )

第2号の今回は、夏の取り組みを紹介したいと思います。

## ★★あつ〜い夏は、涼しいところへ！！★★

暑い！でも、お出かけはしたい！！ということで、屋内への外出を楽しんできました。愛実から近く、涼しいところといえば【名古屋港水族館】です。二ヶ月連続で行って来ました。



一回目。シャチの模型の前で記念撮影☆  
イルカショーを水槽の下側から見物しました。目の前ぎりぎりをイルカが猛スピードで泳いでいく姿に圧倒されました。



二回目。ふれあい広場でヒトデに触らせてもらいました。「なんなの〜？」と不安げなメンバーあり、興味深げにじーっと見つめるメンバーありでした。



## ★★愛実の家マイフーム★★

愛実の家で今流行っていることは・・・

### ♪第1位 風船バレー

愛実の家で今一番熱い活動は、風船バレーです。

制限時間を知らされないまま試合を始めるので、スリル満点！

大きく膨らました風船を、手だけではなく、足や、時には頭まで使って全身で戦います。始めはちょっと戸惑っていたメンバーたちも回を重ねるごとに要領をつかんできたようで勝負師の顔を見せるメンバーも！！

### ♪第2位 感触遊び



左の写真は、【小麦粉スライム】です。

風船の中を小麦粉でいっぱいにして

マジックで絵を描くと、自分だけの

【スライムペット】の出来上がり！

ムニュムニュしていてなんと書けない

感触です。握ったり押しつぶしたりして

遊びました。

### ♪第3位 創作活動

写真左から、【ちぎり絵】魚のイメージ絵】【じみ絵】です。

中でも好評だったのが、真ん中の【魚のイメージ絵】です。

『さかなって何さ？』という絵本を読んで魚の姿を思い描き、紙に表しました。メンバーとアシスタント、個性と想像力が表された作品となりました。



# 大地の家

(P 5～6)

## 名古屋港水族館に行ってきました♪

7月3日(火)みんなで名古屋港水族館に行ってきました。

かわいいイルカのショーや、色とりどりの魚たち。その他たくさんの生き物たちを見ってきました。

興味深げなメンバーや、「何？何～？？」といった感じのメンバー。それぞれ個性的な観賞をしました。

お昼ごはんを水族館の隣のJETTYでとり、その後自由行動に。

自由行動中にはお土産を選んだり、再び水族館に戻ってお魚を観賞したり…。また、メンバーよりもアシスタントの方が目立ってしまって、「ハイ、やり直し(笑)」で素敵なプリクラを撮ったコンビや、体力が有り余っているおかげで隣のイタリア村まで足をのばしたコンビなど、それぞれにお出かけを楽しみました。



## 授産活動 ★廃油で石鹸づくり★



今年度は授産活動を月に2回ほど行い、11月に催される「あったか・あつた・福祉フェスタ」にて授産製品の販売を行なうこととなりました。

その第一弾として、固形石鹸&プリン石鹸の製作を行ないました。

元職員の伊藤さん、伊藤さんのパートナーの川田さんをお招きし、お二人の指導の下製作が始まりました。

石鹼の原料の苛性ソーダと水から熱が発生する化学変化に、メンバーもアシスタントもビックリ！室内ではガスが充満するのでみんなを外に出て製作を行ないました。

今回は白い石鹼だけでなく、色のついた石鹼も作りました。パプリカ、コーヒーなど口に入れても安全なもので色をつけ、自然派にこだわってみました。また、固形石鹼と同時にプリン石鹼も製作しました。



固形石鹼と工程に大きな差はないものの、プリン石鹼は完成するまでに想像以上の時間を要しました。

型に入れて乾燥を待つ固形石鹼と比べ、プリン石鹼は出来上がるまで毎日毎日愛情をこめて攪拌しなければなりません。製作開始から1ヶ月近く経ちますが、未だに毎日ゲル状の石鹼を汗を流しながらグルグル攪拌させ、なめらかなプリン石鹼にすべく頑張っています。夏の暑い時期にしか作れないのは、正直キツイです…。

完成後は販売だけでなく、大地でも使用する予定なので、仕上がりを楽しみにしてくださいね☆

また、授産活動の一環として「さをり織り」にも挑戦しています。メンバーにそれぞれお気に入りの色を選んでもらい、アシスタントと共に織り機に糸を通して「ぱったんぱったん」と音を立てて織っています。大きなものや複雑なものはなかなか作成できませんが、個性的な彩りのコースターやランチョンマットを作っています。

11月11日(日)に熱田生涯学習センターで催される「あったかあつた福祉フェスタ」にてプリン石鹼やさをり織りの販売、施設紹介などを行なう予定で日々準備に追われています。

時間の都合がつくようでしたら是非のぞきにきてくださいね★

# 紙風船のページ

(P7~11)

## 施設見学に行ってきました！！

雨の中、江南市にある「くるみの里」(身体障害者更正施設)に行ってきました。午前中は施設に中を見学。パン、クッキー、アルミ缶回収、下請作業、手工芸...などいろんな作業を体験してきました。くるみのメンバーさんも生き生きとみんな楽しそうでした。午後は交流会をして、お互いの紹介をするなど楽しい時間を過ごしました。



くるみの里の名前の由来は、  
みんなをくるむ (包み込む)  
という意味だそうです。  
紙風船もそんな仲間達がそんな  
あたたかい気持ちでいられる施設  
でありたいなと思いました！

## 9月レクリエーション ～名古屋港水族館～



9月6日みんなで名古屋港水族館へ行ってきました。2年ぶりの名古屋港は前来た時よりきれいになっていました。JETTYでご飯をたべたよ♪おいしかった！水族館へ移動してイルカ&シャチのショーを見ました！トレーナーさんがかっこよくてショーはとてもステキだった！魚たちもとてもかわいくて、とくにペンギンはすごくまるまるしてておもしろかった～。お土産がもっとゆっくり選べたらよかったな。また、行きたいなあ！

山口もとき



シャチのクーちゃん☆  
ミラクルジャンプ♪

# 障害者のくらし展 港養護学校にて

9月14日(金)みんなで港養護学校にて開催された障害者のくらし展へ参加してきました。当日は人形劇の人形をつけ、実際に人形劇の映像を流しながら、小学部から高等部までの生徒さんにや保護者の方に私たちの活動の紹介をしました！ほかにもたくさんの施設の方が参加されており、私たち自身もいろいろな施設の様子を知ることや、お話をする良い機会となりました。私たちの活動に興味を持ってくださる方が1人でもたくさんいると嬉しいな～



他の施設の作業を体験中です！



## お知らせ

4月よりNPO愛実の会となり、運営面が紙風船から愛実の会へ移行しました。そのためこれまで紙風船で行ってきた運営委員会にかわり、今後は「紙風船月一会」という話し合いの場を設けていきたいと思ひます。「紙風船月一会」では仲間・職員・協力者が紙風船の活動や仲間の今後の生活のことなど課題や夢を皆で考えていける機会にしていきたいと思います。ぜひ、みなさんのいろいろな意見を聞けることも楽しみにしていますのでどんどんご参加ください！  
☆毎月第4土曜日(10月・11月は第3土曜日に行います)を予定しています。



### ★今後の予定★

- |            |             |
|------------|-------------|
| 10月18日(木)  | 施設見学(あしたの丘) |
| 20日(土)     | 月一会         |
| 11月 17日(土) | 月一会         |
| 22日(木)     | 名フィルコンサート   |
| 12月 8日(土)  | 忘年会         |
| 22日(土)     | クリスマス会      |



### <あしがき>

今年の夏は本当に暑かったですね。気温がどんどんあがっていく毎日で、とても疲れましたね。わたしは、この間初めて名古屋ドームに野球観戦に行ってきました。ドラゴンズの選手の顔は小さくて見えなかったけど、雰囲気を楽しめて、とってもオモシロかったよ♥紙風船も愛実と合併して★ぼちぼち楽しく元気にすごしています！

田中良枝

## <メンバーの思い>

### 「出会いを大切に」

潮田 則行

いつも父と入浴していました。昨年の3月末、父が会社で大怪我をしました。私が一番気になったのは入浴の事でした。1ヶ月は母に入れてもらっていました。

母も疲れてきて「ゆめや」に行った時、「愛実の会」さんを紹介してもらい週3回ヘルパーさんに入れてもらう様になり、私も母も楽になりました。

10月頃から体がしんどくなり、12月に前にいた施設を辞めました。入浴の時、ヘルパーさんに「紙風船」があるよと言われ、しかも家から5分で行けると聞いて今年の2月に1週間実習に行きました。私にあつてると思い、4月から電動車いすですべて通っています。

「ゆめや」と「愛実の会」といろいろな人との関わりがあったから、今の私があると思います。メンバーの中で一番、年上ですが違和感もなくやっています。

「ゆめや」のマスターの存在が私の出会いを大きくしてくれました



## <協力者の思い>

### 「大成功の飯田公演！」

品川 健一郎

ここ何年かボランティアとして同行しています。毎回、飯田へ行くと自分自身何ができるかと心配していますが、みなさんがいろいろ教えてくださり大変助かります。今年の公演は子供たちがいっぱい、昨年以上の大盛況で、これもメンバー、職員の頑張った成果だと思います。これからも微力ですが、少しでもお役に立てればと思っています。公演お疲れ様でした。

## ☆公演だより☆

第102回 2007年8月4日(土)

飯田人形劇フェスティバル 飯田市創造館 「ポーちゃん」

新メンバーでの初公演は、みんなとても緊張していたけど、お客さんの反応、特に子供達の受け答えがいつもより良く、会場が一体となって楽しめました。  
新メンバーでの良いスタートとなりました。

がんばるぞー！オー！！



第103回 2007年8月25日(土)

大府公演 石ヶ瀬会館 「ポーちゃん」

共催 ボランティアグループ「ひまわり」 大府市社会福祉協議会

大府で4年ぶりの公演でした。121人もの大勢の方が観に来てくださり、公演中はお客さんの笑い声や拍手がいっぱい盛りました。私たちもとても楽しく演じることができ、また「前にもみたよ！すごく舞台もよくなってるね！」などと声をかけてもらい嬉しかったです。ひまわりグループの皆さんと昼食をとりながら、4年前とは違った私たちの頑張りを聞くことができよかったです。ありがとうございました！毎年夏休みに大府で公演できたらいいな～！

飯田人形劇フェスティバルにて沢山の感想をいただきました！！

- Aさん : 新しいキャストとスタッフで間の取り方とか大変だと思いますけど、新たな「ポーちゃん」が出来るの楽しみにしています。
- Bさん : 大人が見ても充分楽しめ、一番現代に必要だと思いました。
- Cさん : 去年か一昨年見た時より場慣れしてきた気がします。出来るだけ人形を隠さないように動かして欲しいな！

貴重なご意見ありがとうございました！

### 今後の公演予

- ☆10月7日(日) パペットフェスティバル ジャンボシアター14:00～「ポーちゃん」
- ☆11月10日(土) 名桜祭(桜花学園大学・名古屋短期大学) 「ポーちゃん」
- ☆11月25日(日) 緑文化小劇場「アウトリーチ事業」公演  
宿泊青年の家(大高)にて 「ポーちゃん」

# コミュニケーション的人間関係

南 寿 樹

「もうやだ。やりたくない」「すげえむかつくんだけど」「あー、頭痛い。保健室へ行って良い？」小学部6年の算数の授業中のこと。大樹が机に教科書をたたきつけて騒ぐ。すると隣の席の直美も、「あーやだ。なんでこんなこと勉強しないといかんの？」と大樹に呼応するように落ち着きがなくなる。あとの二人も学習する雰囲気をなくし、プリントに落書きをし始める。

「さあ、わかったから、落ち着きましょう」「大樹くん、ノートを出して」と久美子先生が毅然とした態度で指示を出す。私は、高等部の担当であるが、補助的にこの授業に入っている。

———これまで経験した事も無い場面。(自分は一体、どうすれば良い?)

「うー」と低い唸り(うなり)声を出してこうじがシャープペンシルで頭を傷つけ、血を流す。

「南先生、こうじ君を保健室に連れて行ってもらえますか？」という久美子先生の声に助けられる感じで、こうじと教室を出る。保健室で治療してもらっている間「クラスの方は大丈夫だろうか…？」と気になる。しかし教室に戻ってみると、授業は平然と続けられていた。

———すごい。よく乗り越えられたな。(でもなぜ、学級崩壊にならない?)

久美子先生は、子どもたちの反応をイメージして実に多くの教材を工夫して用意する。それでも授業が進まないときがあるが、「ごめんね。また作り直してくるね」と謙虚に伝える。「いいよ、無理しなくて」とそっけなく言う大樹だが、根底では心がつながっている。また子どもたちが不安定になったときも、「じゃあ、5分だけ休憩にします」「教室では、騒がない約束だよ」と端的な指示を出す。「えー? 10分にしよう」「外に行こう」という子どもたちの気持ちは受けとめるが、要求は受け入れない。それでもみんなが指示に従うのはなぜか? ——そこにコミュニケーション的人間関係ができているからだろう。ADHD(注意欠陥多動性障害)、アスペルガー症候群などの発達障害について私などは本でしか読んだことがないが、久美子先生は、子どもたちと日々一緒に苦楽を共にする中でその実態を深く理解し、共感関係も作ってきたのだと思う。そして科学や文化を子どもたちに合わせて(その日の体調も加味して)提供する。———それこそ、他の誰にも代わりがたい教育労働の専門性をもったプロの姿ではないか!

「教育・福祉の現場は、コミュニケーション的人間関係でなりたっている。このときのコミュニケーションとは、相互理解・合意の形成・獲得である」(二宮厚美 神戸大学)

今年の全障研全国大会で記念講演された二宮氏は、この「コミュニケーション的人間関係」こそが、小泉首相が推し進めようとした新自由主義という「格差を生む構造改革」に対抗するものと主張する。新自由主義の教育とは、簡単に言うと子どもを消費者(お客)、学校や教師を商品のように分断して、「お好きな商品を選んでください。嫌なら返品を」という関係の教育のことだ。(東京のある小学校は、入学希望者がなく廃校になった)使い捨てる教師と学校は、生き残りを賭け、契約方式で個別指導計画を作り、マニュアル通りにできるだけ効率的に教育する。また今年4月からの特別支援教育は、障害ではなく個人のニーズを出発点にするため、障害種別の教育の原則が崩され、「子ども同士が対等に自分を出し、安心できる」環境がなくなるとしている。ここでは、子ども相互、そしてまた教師と子どもが共に作り上げていくようなコミュニケーション的人間関係が軽視され、集団づくりの教育的意義が見失われていく…

しかし自分のことを言えば、正直なところあせっている。目の前にいる子どもたちの言動にたじろぎ、振りまわされることが多く、まだ内面をつかむことができていないのだ。でも久美子先生とは違うかもしれないが、自分なりに相互理解と合意をめざすコミュニケーション的人間関係を作っていきたい。自分が勝手に作った指導計画などのシナリオからはずれる子どもを「困った子」として見放すのではなく、「困っている子」として寄り添い、共に発達し合う関係を作りたい。そして世界を広げ、多くの人とつながる豊かな「自分づくり」をめざしたい!



## 賛助会員募集



### 【愛実の会】

賛助金 1 □ 年 2 0 0 0 円  
 振替口座 00870-3-104866 「愛実の会」  
 ・ 愛実の会  
 ・  
 ・ 紙風船夢づくり基金

紙風船夢づくり基金とは

紙風船の仲間たちが人形劇の活動を充実させ、継続していくための費用です。人形劇を行うには人形制作費や遠方での公演活動費など様々な経費が必要となります。

人形劇活動をはじめ、紙風船の活動をゆたかにしていくための費用として活用させていただきます。

※ 紙風船の賛助会員の皆様へ

今号より、紙風船の口座が愛実の会と統一されます。今までの口座番号も継続はしていますが、今後お振込みしていただける際には、愛実の会の口座へよろしくお願いいたします。重ねて、愛実の会を今後ともよろしくお願いいたします。

### 紙風船賛助会員新規・継続者 寄付者

#### <新規賛助会員>

潮田 則行様 戸田 伊助様 橋口 洋様 橋口 恵美子様

#### <継続賛助会員>

関谷 たか子様 石井 昌也様 早川 教示様 浜島 一史様 加藤 百代様  
市野 ちづ様 松浦 孝夫様 森 紫寿子様

#### <ご寄付>

小野 孝児様

### ♪人形劇公演依頼募集♪

紙風船では仲間たち一人ひとりが演じる人形劇を通して、皆さんに元気や希望を与えていけることを目指しています。ぜひ行事、イベント等がありましたらお声をかけてください！皆さんが笑顔になれる、そんな心温まる人形劇をお届けします。

# ボランティアさん大募集

- ★仲間達と一緒に活動して下さる方
- ★食事を作って下さる方 など随時募集しています。

興味のある方は、ぜひご連絡ください！！

## イエローレシートキャンペーン実施中

毎月11日「イオン・デー」に開催される『イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン』に愛実の会も参加しています。  
現在港ジャスコベイシティ様とイオン千種店様にボックスを設置させていただいています。  
ぜひ、ご来店の際はご協力よろしくお願ひします。

### <連絡先>

<b>特定非営利法人愛実の会 事務局 居宅介護事業所 あみ</b> 〒456-0034 熱田区伝馬1-8-1 エスパール伝馬201 TEL/FAX 052-700-1120 e-mail npo-aminokai@st.commufa.jp	<b>大地の家</b> 〒456-0034 熱田区伝馬2丁目28-14 「名古屋働く人の家」内 TEL 052-681-6488
<b>紙風船</b> 〒457-0845 南区観音町5-109 TEL/FAX 052-694-5458 e-mail ami_kamifuusen@yahoo.co.jp	<b>愛実友だちの家</b> 〒456-0057 熱田区五番町18-29 TEL/FAX 052-651-5953 e-mail aminokai@nifty.com

### 【編集後記】

猛暑と言われた夏も徐々に落ち着き、ようやく朝晩は過ごしやすくなってきました。  
メンバーは元気いっぱいですが、アシスタントの方はやや夏ばてのようで、メンバーに押され気味のこともしばしば。。。  
今度のお届けは冬真っ只中でしょうか。  
次回もお楽しみに。

佐野光子